



ソフトウェアディファインドビークル におけるセキュリティ

近年、ソフトウェアは世界各国の多くの自動車メーカーが重視するようになってきました。従来のOEM、自動車ブランド、スタートアップが、設計やコアユーザーエクスペリエンスからライフサイクルの維持・拡張まで、自動車のライフサイクルの多くの領域でソフトウェアファーストでの技術統合を進めています。

ハードウェアからソフトウェアへ、そして個々のECUから高度なコンピュータシステムへと焦点が移り続ける中、新たなサイバーセキュリティ脅威とその脆弱性を突く攻撃ポイントが登場することになるでしょう。このため、ソフトウェアディファインドビークルに携わるOEMやサプライヤー各社は、新たな対策技術を採用し、新たなリスクを管理するための十分な備えをすることが必要です。

本書「ソフトウェアディファインドビークルにおけるセキュリティ」では、SDVをチップからクラウドまで網羅しながら一般的なアーキテクチャの典型的な脅威モデルを提供し、SDVテクノロジスタックの各層における悪質なサイバーセキュリティ攻撃を防止、検出、抑制するためのベストプラクティスを明らかにします。



目次

はじめに

SDVの概念

要旨

基本情報

分析

チップセット

クラウド

E/E

ソフトウェア

組織構築と戦略

次のステップ

付録

関連レポート

ソフトウェアディファインドビークル将来予測

レポート番号：402

本書では、地域別、セグメント別のイネーブラ技術の今後の成長についての予測を提供します。10年予測では、主要なOEMグループが将来のE/Eアーキテクチャ要素をどのように展開するかを理解し、これらの要素がどのように進化していくかを評価しています。

対象市場

欧州 米国 中国
日本 グローバル その他

レポート発行頻度

毎年更新 半年更新 四半期更新 毎月更新 **1** ワンタイム

レポート形態

PDF PowerPoint Excel Online

ページ数

157

本書について（調査対象・範囲）

本書では下記について解説しています。

- > サイバーセキュリティの観点での、従来の車両アーキテクチャとSDVの根本的な違い
- > SDVによりどのような新しい攻撃ポイントがもたらされ、OEMは車両を保護するためにどのようにアプローチを変える必要があるのか
- > SDVを保護するための新たなソリューション、またさらなる研究開発がどの部分で必要となるか
- > UNECE R155への初期対応や継続的な対応における、SDVへの移行の影響

SBDカスタマーポータル

ご契約いただいたレポートへはお客様専用ポータルサイトからアクセスいただけます。

ポータルサイトのアカウントはご契約企業ごとに作成され、ご契約企業に所属する方であれば登録ユーザー数に制限はございません。

ご契約状況の確認や、ポータルサイトへの新規ユーザー登録をご希望の場合は、SBD Automotive ジャパンまでお問い合わせください。



本書に関するお問合せ・お見積り依頼 「ソフトウェアディファインドビークルにおけるセキュリティ」

お問合せ・お見積り依頼



サンプルレポートの無料ダウンロード

